

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年12月15日
【四半期会計期間】	第46期第1四半期（自平成23年8月1日至平成23年10月31日）
【会社名】	株式会社大盛工業
【英訳名】	OHMORI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 進助
【本店の所在の場所】	東京都葛飾区水元三丁目15番8号
【電話番号】	東京03(3627)3221(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 宮路 晴男
【最寄りの連絡場所】	東京都葛飾区水元三丁目15番8号
【電話番号】	東京03(3627)3221(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 宮路 晴男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第1四半期 累計期間	第46期 第1四半期 累計期間	第45期
会計期間	自平成22年 8月1日 至平成22年 10月31日	自平成23年 8月1日 至平成23年 10月31日	自平成22年 8月1日 至平成23年 7月31日
売上高(千円)	378,808	756,528	1,932,476
経常損失(千円)	102,187	3,642	248,193
四半期(当期)純損失(千円)	102,430	4,466	288,031
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金(千円)	1,758,495	1,761,657	1,758,495
発行済株式総数(株)	普通株式 77,527,498	普通株式 77,827,498	普通株式 77,527,498
純資産額(千円)	1,522,096	1,332,674	1,333,699
総資産額(千円)	2,771,286	2,477,639	2,651,303
1株当たり四半期(当期)純損失 金額(円)	1.32	0.05	17.19
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
1株当たり配当額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	54.9	53.7	50.2

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式は存在しますが、1株当たり四半期(当期)純損失が計上されているため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。なお、当社は従来どおり、関係会社はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

特記事項はありません。

3【財政状態、経営成績の状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による落ち込みから、一部にやや持ち直しの基調は見られたものの、欧州の債務問題等による円高傾向やタイの洪水による影響から、先行き不透明な状況で推移しました。

建設業界におきましては、東日本大震災の復旧・復興の補正予算による建設投資の増加並びに民間設備投資の回復に期待はあるものの、依然として厳しい公共投資の減少は引き続いており、受注競争は一層激化しております。

このような状況の中、当社におきましては、主力の上・下水道の施工におきまして、他社との差別化を図るため、より一層技術力の向上を推進してまいりました。また、不動産部門におきましては、O L Y機材等の一層の普及促進に向け、積極的に新規顧客獲得に向け営業を展開するとともに、販売用不動産も早期売却を図るとともに利回り物件の獲得を推進してまいりました。

一方、保有資産の有効利用を図り、本社建物一部を改装し、トランクルームとして、レンタル事業を開始いたしました。

その結果、当第1四半期累計期間の業績につきましては、受注高6億47百万円（前年同期比73.2%増）、売上高7億56百万円（前年同期比99.7%増）となりました。

収益面につきましては、販売用不動産の売却による収益の確保や原価低減、経費削減に努め、営業損失5百万円となりましたが、前年同期に比べては、改善されました。

経常損益面につきましては、支払利息等の支払いはあったものの、不動産賃貸料の収入により3百万円の経常損失となりました。

四半期純損益につきましては、4百万円の四半期純損失となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(建設事業)

建設事業におきましては、引き続き公共投資の縮減による落札価格の低価格化が続いておりますが、受注高3億50百万円（前年同期比33.3%増）、売上高4億57百万円（前年同期比70.5%増）、完成工事総利益34百万円（前年同期比82.7%増）となりました。

(不動産事業等)

不動産事業等におきましては、O L Y機材の拡販と販売用不動産の早期売却により、受注高2億96百万円（前年同期比168.2%増）、売上高2億96百万円（前年同期比168.2%増）となり、不動産事業等総利益25百万円（前年同期は9百万円の不動産事業等損失）となりました。

(その他)

その他事業におきましては、投資事業において一部評価損6百万円を計上したことに伴い売上高2百万円、その他の売上総利益 3百万円となりました。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末の資産の残高は、24億77百万円となり、前事業年度末に比べ1億73百万円減少いたしました。その主な要因は、販売用不動産66百万円の減少、不動産事業等支出金51百万円の減少等によるものであります。

当第1四半期会計期間末の負債の残高は、11億44百万円となり、前事業年度末に比べ1億72百万円減少いたしました。その主な要因は、未成工事受入金83百万円の減少、支払手形・工事未払金等40百万円の減少、短期借入金26百万円の減少及び未払金19百万円の減少によるものであります。

当第1四半期会計期間末の純資産の残高は、13億32百万円となり、前事業年度末に比べ1百万円の減少となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
A種優先株式	2,775,000
B種優先株式	2,775,000
計	305,550,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年10月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年12月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	77,827,498	77,827,498	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	77,827,498	77,827,498	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数		資本金		資本準備金	
	増減数 (株)	残高(株)	増減額 (千円)	残高(千円)	増減額 (千円)	残高(千円)
平成23年8月1日～ 平成23年10月31日	300,000	77,827,498	3,161	1,761,657	3,161	56,637

(注) 発行済株式総数、資本金並びに資本準備金の増加は、新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の状況については、実質株主が把握できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成23年7月31日に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 39,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 77,474,000	774,681	-
単元未満株式	普通株式 14,298	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	77,527,498	-	-
総株主の議決権	-	774,681	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄の株式数には、証券保管振替機構名義の株式が5,900株含まれておりますが議決権の数には同機構名義の59個は含めておりません。

【自己株式等】

平成23年7月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)大盛工業	東京都葛飾区水元三丁目15番8号	39,200	-	39,200	0.05
計	-	39,200	-	39,200	0.05

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の変動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成23年8月1日から平成23年10月31日まで）及び第1四半期累計期間（平成23年8月1日から平成23年10月31日まで）に係る四半期財務諸表について、KDA監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年7月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	821,190	823,155
受取手形・完成工事未収入金等	296,561	269,522
未成工事支出金	5,271	13,602
不動産事業等支出金	129,067	77,139
販売用不動産	227,388	161,166
営業投資有価証券	75,948	73,864
短期貸付金	8,050	11,050
前払費用	8,676	6,161
その他	163,379	124,577
貸倒引当金	15,514	17,407
流動資産合計	1,720,020	1,542,832
固定資産		
有形固定資産		
建物	852,638	861,291
減価償却累計額	627,652	632,860
建物(純額)	224,986	228,430
構築物	103,918	103,918
減価償却累計額	103,918	103,918
構築物(純額)	0	0
機械及び装置	52,510	52,510
減価償却累計額	52,510	52,510
機械及び装置(純額)	0	0
車両運搬具	1,272	1,272
減価償却累計額	1,272	1,272
車両運搬具(純額)	0	0
工具器具・備品	72,091	72,091
減価償却累計額	63,605	64,013
工具器具・備品(純額)	8,485	8,078
土地	402,253	402,253
有形固定資産合計	635,726	638,763
無形固定資産	3,103	4,600
投資その他の資産		
長期貸付金	216,887	215,816
破産更生債権等	1,406	574
固定化営業債権	235,527	235,527
その他	233,137	233,475
貸倒引当金	394,508	393,951
投資その他の資産合計	292,452	291,442
固定資産合計	931,282	934,806
資産合計	2,651,303	2,477,639

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年7月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年10月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	245,086	204,800
短期借入金	588,613	562,413
未払金	23,529	3,794
未払費用	59,583	49,984
未払法人税等	6,009	1,820
未成工事受入金	283,286	199,718
預り金	65,715	59,529
工事損失引当金	1,204	1,508
完成工事補償引当金	4,585	4,585
賞与引当金	5,553	11,004
その他	6,637	13,694
流動負債合計	1,289,806	1,112,855
固定負債		
退職給付引当金	14,585	18,897
その他	13,212	13,212
固定負債合計	27,797	32,109
負債合計	1,317,603	1,144,964
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,758,495	1,761,657
資本剰余金	53,475	56,637
利益剰余金	410,281	414,747
自己株式	56,484	56,484
株主資本合計	1,345,205	1,347,062
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,013	15,872
評価・換算差額等合計	13,013	15,872
新株予約権	1,508	1,484
純資産合計	1,333,699	1,332,674
負債純資産合計	2,651,303	2,477,639

(2) 【四半期損益計算書】
【第 1 四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第 1 四半期累計期間 (自 平成22年 8 月 1 日 至 平成22年10月31日)	当第 1 四半期累計期間 (自 平成23年 8 月 1 日 至 平成23年10月31日)
売上高		
完成工事高	268,166	457,147
不動産事業等売上高	110,601	296,598
その他の売上高	39	2,782
売上高合計	378,808	756,528
売上原価		
完成工事原価	249,375	422,809
不動産事業等売上原価	119,752	270,800
その他の売上原価	-	6,212
売上原価合計	369,128	699,822
売上総利益		
完成工事総利益	18,790	34,337
不動産事業等総利益又は不動産事業等総損失 ()	9,150	25,798
その他の売上総利益又はその他の売上総損失 ()	39	3,430
売上総利益合計	9,680	56,705
販売費及び一般管理費	99,313	61,734
営業損失 ()	89,633	5,028
営業外収益		
不動産賃貸料等	6,808	10,717
その他	2,450	1,742
営業外収益合計	9,259	12,460
営業外費用		
支払利息	6,684	3,360
支払手数料	8,778	315
手形売却損	-	54
貸倒引当金繰入額	-	2,069
雑支出	6,350	5,275
営業外費用合計	21,813	11,074
経常損失 ()	102,187	3,642
特別利益		
貸倒引当金戻入額	580	-
特別利益合計	580	-
税引前四半期純損失 ()	101,607	3,642
法人税、住民税及び事業税	823	823
法人税等合計	823	823
四半期純損失 ()	102,430	4,466

【会計方針の変更等】
該当事項はありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】
該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期累計期間 (自平成23年8月1日 至平成23年10月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正により、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】
(四半期貸借対照表関係)

受取手形割引高

前事業年度 (平成22年10月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年10月31日)
	受取手形割引高は、3,895千円であります。

(四半期損益計算書関係)

前第1四半期累計期間 (自平成22年8月1日 至平成22年10月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年8月1日 至平成23年10月31日)
1. 一般管理費及び販売費の主なもの 役員報酬 13,661千円 従業員給料手当 19,668 支払手数料 31,807 2. 当社の売上高は、主たる事業である建設事業において、第2四半期累計会計期間までと第3四半期会計期間以降では、休暇日数の差異があり、第3四半期会計期間以降に売上高が多くなるといった季節的変動要因があります。	1. 一般管理費及び販売費の主なもの 役員報酬 9,900千円 従業員給料手当 8,443 支払手数料 10,314 2. 当社の売上高は、主たる事業である建設事業において、第2四半期累計会計期間までと第3四半期会計期間以降では、休暇日数の差異があり、第3四半期会計期間以降に売上高が多くなるといった季節的変動要因があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書及び前第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費の償却額は、次のとおりであります。

前第1四半期累計期間 (自平成22年8月1日 至平成22年10月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年8月1日 至平成23年10月30日)
減価償却費 6,744千円	減価償却費 5,939千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自平成22年8月1日至平成22年10月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自平成23年8月1日至平成23年10月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(金融商品関係)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自平成22年8月1日至平成22年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	建設事業	不動産事業等	計				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	268,166	110,601	378,768	39	378,808	-	378,808
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	268,166	110,601	378,768	39	378,808	-	378,808
セグメント損失()	62,164	26,798	88,962	670	89,633	-	89,633

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、営業投資有価証券の売買等を行っております。

2. セグメント損失()は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期累計期間(自平成23年8月1日至平成23年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	建設事業	不動産事業等	計				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	457,147	296,598	753,746	2,782	756,528	-	756,528
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	3,211	3,211	-	3,211	3,211	-
計	457,147	299,809	756,957	2,782	759,739	3,211	756,528
セグメント利益又はセグ メント損失()	11,453	10,008	1,444	3,583	5,028	-	5,028

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、営業投資有価証券の売買等を行っております。

2. セグメント損失()は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成22年8月1日 至平成22年10月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年8月1日 至平成23年10月31日)
1株当たり四半期純損失金額	1円32銭	0円5銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	102,430	4,466
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	102,430	4,466
普通株式の期中平均株式数(株)	77,488,276	77,713,267
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年12月15日

株式会社大盛工業
取締役会 御中

K D A 監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 佐佐木 敬昌 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 菊原 栄三 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社大盛工業の平成23年8月1日から平成24年7月31日までの第46期事業年度の第1四半期会計期間（平成23年8月1日から平成23年10月31日まで）及び第1四半期累計期間（平成23年8月1日から平成23年10月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社大盛工業の平成23年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。